



### 水流豊かな街

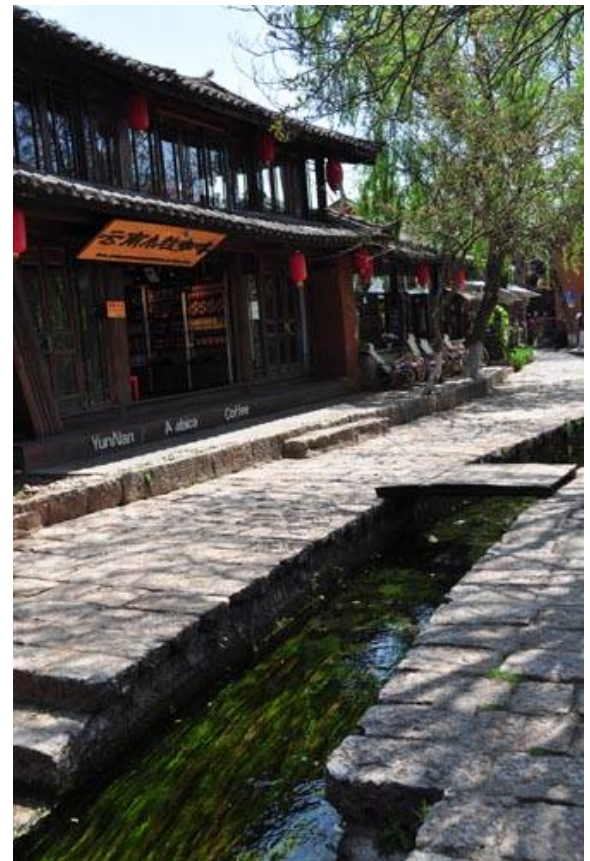
観光に便利な様に街毎に地図の案内板がある。形が統一されているからすぐに目に入る。周囲に合った地味なものなので景色の邪魔にならなくてよい。水の流れが青い線で描かれているが、いかに多いかわかるだろう。東になった河とは当て字としては良い名前を付けたものである。この水の流れはさらに細かく分かれて細かい流れになっている。



中心部にレストランが多い場所がある。水の流れが入り組んでいて、そこに木の渡り橋が掛かっている。清流を眺めながら飲食が出来る店が周囲に集まっている。水には景色が映りこんでいた。暗くなれば、赤い灯が水面に映って良い雰囲気を出し出すに違いない。それにしても酔っ払って水に落ちる人がいないかと心配する位水際まで椅子を並べてあった。幸い水は浅いが木の渡りも狭く手摺りもない。水に濡れていたら歩くのに滑って危ない。



歩道と水面までの距離も近い。これでは下流で堰き止めただけで道に水が溢れてくる。道路の清掃も簡単に出来るだろう。ここでの疎水設計は景色を創るだけでなく、街の美化にも使っている様だ。







2400mの自然豊かな宿場町である。高原の保養地としては申し分ない環境だ。人気があるのも頷ける。

麗江の古城区のように歴史的な建造物が建ち並んではいるが、観光地化されている所よりも、まだ素朴感が残っている東河の方が散歩していて気持ちが良い。



この街は歴史的に保存が必要な麗江と違って、多少の改造が許されているのかもしれない。壁や窓を今風にした建物、並木が整備されている様子が伺われる。しかし、それも景観を壊さない範囲である。あまり派手すぎる看板や飾りを見ることはない。電柱、電線がないのも麗江と同じだ。

観光客があまり歩いていない裏通りを歩いて見ると、まだ昔のままらしい建物が残っていた。田舎町の雰囲気がある。狭い路地でも石畳が敷いてある。石が新しいので観光客が増えたので敷き替えたものと思われる。右側の屋敷に緑色の瓶がたくさん下がっていた。著名な青島（チンタオ）ビー



ルの空き瓶である。どうやら中庭をビアカフェに開放しているらしい。通常内部が見えない壁も改造して内部が見えるようにしてあった。



茶馬古道の案内書には商業で栄えた所として掲載されているが、中国で発行されている一般の旅行案内書には麗江世界遺産の組成と数行の説明があるだけである。今のところは麗江を訪れた観光客がたまたま足を伸ばす位の所だろう。

広場の公園には観光用の馬車がいた。また青龍橋とは別の橋には観光用の馬が繋がれている。



家族連れは馬車に乗って、或いは荷駄隊の目線でこの街を闊歩するのも悪くない。世界遺産の町として麗江は誰もが知っている。タクシーでも行ける距離である。ぜひ麗江旅行の際にはここまで足を伸ばしてほしい場所であった。



街中に緑が多い。柳並木の大通りには木陰で休んでいる人もいるし、露天で農作物を売っている姿もある。

上の街はそんなに広くない。時間をかけないで一回り出来てしまう。青龍橋に戻って下の方にある街へ下っていった。